

# 大和における融通念佛宗の展開

特に宇陀地域を中心

稻城信子

The Development of the Yuzu Nembutsu Sect in Yamato: with Specific Reference to the Uda District

はじめに

- ① 大和への進出
- ② 大和七カ大寺の成立
- ③ 宗祐寺所蔵「年中行事」からみた融通念佛宗寺院
- ④ 大和における融通念佛宗寺院の分布  
おわりに

## [編文要目]

融通念佛宗は、十七世紀以降、大念仏寺（大阪市平野区平野）を中心として、摂津・河内・大和で行われていた融通念佛の講や寺庵等を組織化していく過程で形成され、いつた宗派である。それらは、近世では「大念佛」とも呼ばれたが、正式に融通念佛宗という宗派として認められたのは、明治七年（一八七四）である。

融通念佛は、良忍（一〇七三～一一三一）によって提唱された念佛信仰で、多数の人々が唱える念佛が相互に影響を及ぼしあって大きな功德を生じるという思想である。融通念佛宗の成立以前の融通念佛は、法然・親鸞・一遍たちの阿弥陀仏の本願を重視する念佛信仰と異なる念佛信仰の大潮流となつていった。それは、現在もなお全国に分布し、大念佛・六斎念佛等の民俗行事として残されていることで領ける。融通念佛宗に属する寺院は、もともと講集団から在俗者が居住する寺院となり、さらに出家者の居住する寺院へと変化してきたものが多い。融通念佛宗が一宗として、組織化さ

れるようになる以前の大和には、講集団の活動という組織的基盤があつたのである。大和における融通念佛信仰の組織化は、樅原町・宗祐寺を中心として寛永年間（十七世紀前半）に宇陀地域から始まり、平群・生駒・磯城郡等の地域は、大念佛寺住持大通（一六八九～一七一五住持）の時代に大念佛寺を中心とした融通念佛宗として組織化が行われていったのである。

本論では、近世社会において、大和を中心にして融通念佛宗が、本尊「十一尊仏画像」の下付や「回在」という行事を通して組織化され、特定の講組織を越えて広く、民衆の間にまで根ざしていくのかを考察するものである。